様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	13	0	6	19	13	無し
	航空システム工学科	夜・通信			6	19	13	無し
	ロボティクス学科	夜・通信			0	13	13	無し
	電気電子工学科	夜・通信			4	17	13	無し
	情報工学科	夜・通信			0	13	13	無し
	環境土木工学科	夜・通信			6	19	13	無し
情報フロンティア学部	メディア情報学科	夜・通信	13	0	3	16	13	無し
	経営情報学科	夜・通信			3	16	13	無し
	心理科学科	夜・通信			0	13	13	無し
建築学部	建築学科	夜・通信	13	0	6	19	13	無し
バイオ・化学部	応用化学科	夜・通信	13	0	6	19	13	無し
	応用バイオ学科	夜・通信			6	19	13	無し

（備考）

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyoiku/jitsumukyoin.html （「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」を記載、一覧表の科目名をクリックすることで、シラバスを表示）

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名　（なし）
（困難である理由）

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/riji-list.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社 代表取締役会長	2024.6.1 ～ 2026.5.31	教育支援担当
非常勤	株式会社 代表取締役会長	2024.6.1 ～ 2026.5.31	イノベーション ・研究支援担当
非常勤	有限会社 取締役社長	2024.6.1 ～ 2026.5.31	学生・卒業生 支援担当
（備考）			

様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

① シラバスの記載内容

本学のシラバスの様式は、大分類として「授業科目の基本情報」「授業科目の概要・目標」「成績評価の方法と達成度」および「各授業回の実施方法」の４分類から成っている。４項目の記載内容を次に示す。

A) 授業科目の基本情報：授業科目区分・科目名・単位数・開講期・履修方法・担当教員名・内線番号・電子メールアドレス・オフィスアワーを記載。

B) 授業科目の概要・目標：授業のキーワード・学習教育目標・授業の概要と学習上の助言・教科書、参考書・履修に必要な予備知識・学生が達成すべき行動目標を記載。

C) 成績評価の方法と達成度：評価方法・評価指標と割合・評価の実施方法と注意点・理想的な達成レベルと標準的な達成レベルを記載。

具体的には、本学で開講している全ての授業科目における評価方法は、試験・レポート等、７つの区分に分類され、この区分ごとに何点を配分するかをシラバスに明記し、更に、この区分ごとに知識・思考等５項目の評価指標を設定し、それぞれの評価割合を示している。また、到達目標として「理想的な達成レベル」と「標準的な達成レベル」をそれぞれ示している。

D) 各授業回の実施方法：各授業回の学習内容・授業の運営方法・学習課題・予習復習時間を記載。

具体的には、各授業回で実施する具体的な授業の内容の他、講義・演習・実験・実習・討論・発表・フィールドワーク等の区分と、課題・予習復習の内容、大よその授業外学習の時間の目安、持参すべきもの・提出物等が記載されている。

また、本学では日々の学習をより能動的なものとするために、シラバスの内容をベースとした「ｅシラバス」を別途運用している。シラバスとの違いは、授業で用いた提示資料や課題に関する情報へのリンク、各授業回の学習に関連するｅラーニング教材・関係する課外教育プログラム・授業科目に関係する OB・OG のビデオ紹介へのリンクに加えて、レポート提出機能・ポートフォリオへのリンク等がなされている点であり、これらが PC、スマホを含むタブレットで操作・閲覧できることである。

② シラバス作成のプロセスと作成・公表の時期

ステップ１【12 月～1 月・２月】：次年度に開講する科目のシラバスを担当教員が作成

科目を担当する教員が、シラバスの内容を記載する。特に、一つの科目を複数クラス開講し、クラスごとに異なる教員が担当する場合や、一つの科目を複数の教員で担当する場合においては、教員間で議論・調整を図り一つのシラバスとして作成する。

ステップ２【1 月・２月～3 月上旬】：第三者点検の実施

各学科の学事運営の責任を担う主任教授が、学科内で運営する全ての科目のシラバスの内容を俯瞰的に点検すると共に、科目間の調整を図り、担当教員に修正を依頼する。

ステップ３【4 月１日】：ホームページにて公開

学生には各学期開始の２ヵ月前に、社会に対しては毎年 4 月 1 日に大学のホームページにて広く公開している。なお、過去のシラバスも年間を通し広く公開している。

ステップ４：改善

授業アンケート、成績分布、FD 活動、IR 情報等から授業改善を行い、次年度のシラバスの内容の改善を図ることとしている。

授業計画書の公表方法	https://europa.kanazawa-it.ac.jp/opsyllabus/kitos0100/

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

学生には、授業初回に成績評価に関してその授業科目において成すべき行動目標・達成度評価の方法と注意点・理想的な達成レベル等について説明すると共に、シラバスに具体的に記載して提示している。その内容を次に示す。

① 達成すべき行動目標

科目ごとに学生が達成すべき行動目標を、5～6 項目「○○ができる」という表現で統一してシラバスに記載しており、学生がその科目において何を達成すべきかを具体的に示している。

② 達成度評価

達成度評価は、「評価方法」と「指標・評価割合」を表の縦・横の関係で提示している。具体的には、表の横方向（行）に評価の方法として、「試験」「小テスト」「レポート」「発表」「作品」「ポートフォリオ」「その他」の 7 つに区分し、どの区分で何点分を評価するか示している。また、表の縦方向（列）に評価の指標として、「知識を取り込む力」「思考・推論・創造する力」「コラボレーションとリーダーシップ」「発表・表現・伝達する力」「学習に取組む姿勢・意欲」の 5 項目を示し、先の 7 区分一つ一つに対して配点を提示している。

③ 評価の実施方法と注意点

評価の具体的な実施方法として、上記①で示した「達成すべき行動目標」と、②で示した 7 区分との関係性を示すと共に、評価を行う際の注意点を提示している。換言すると、「達成すべき行動目標」一つ一つに対して、どの様に評価するかをより具体的に記載して学生に提示している。

④ 到達目標と達成レベルの基準

到達目標と達成レベルの基準を明確に示すことを目的に、「理想的な達成レベル」と、「標準的な達成レベル」を、それぞれ文章で具体的に学生に示している。

なお、本学では毎回の授業において、学生の自己点検を行う時間を設けている。また、教員が成績評価をした後に一旦学生に開示し、学生からの異議申し立てを行う期間を設ける制度を運用している。

卒業研究に相当する 4 年次通年の必修科目である「プロジェクトデザインⅢ」ならびに 2 年次必修科目である「プロジェクトデザインⅡ」および「プロジェクトデザイン実践」の 3 科目では、学修成果を広く社会に対してプレゼンテーションを行う「公開発表審査会」等を毎年開催し、企業・保護者・高校教員等が毎年参加している。これらの成果発表会での内容も、成績評価の中に盛り込まれている。

このように本学では、成績評価の基準や方法等を予め詳細に設定し、それをシラバスにて具体的に示すと共に学生に説明し、社会に公表した上で、成績評価を行い単位を授与している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

①GPA ポイント

本学の成績評価は、90%以上を「S（秀）」、80%から 90%未満を「A（優）」、70%から 80%未満を「B（良）」、60%から 70%未満を「C（可）」とし、以上が単位認定となる。60%未満は「D（成績不良）」という評価となり単位が認定されない。

この成績評価について、「S」4 ポイント、「A」3 ポイント、「B」2 ポイント、「C」1 ポイント、「D」0 ポイントとした評価ポイントを付加し、GPA の算出している。算出の計算式を次に示す。

$$\text{GPA ポイント} = \frac{\text{（評価ポイント} \times \text{単位数）の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

なお、計算結果の小数点以下 3 桁目を四捨五入し、小数点以下 2 桁までで表している。これらの算出方法は、ホームページで広く社会に公表している。

このように、GPA は個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における 1 単位当たりの成績評価の平均値を表すもので、これにより各学期終了時点の学生一人一人の成績状況を確認できるものである。なお、GPA は全履修科目を対象としているため、学生自らの履修計画に基づき、履修許可を受けた科目は、確実に履修し単位修得に努める必要があることを学生に周知している。

② 実施状況

GPA ポイントは、今後の修学指導における基礎資料となるばかりではなく、就職指導や大学院への進学指導（学内選抜試験への出願資格）における基礎資料ともなる。また、GPA は、入学から現在までの「累積 GPA ポイント」と各学期に算出する「単学期 GPA ポイント」、更に「専門科目 GPA ポイント」があり、学生は「成績照会システム」からいつでも確認できる仕組みとなっている。また、保護者には、毎年、全国 54 会場で実施する保護者会にて、GPA ポイントを基にそれぞれの学生の修学状況を説明している。
成績の分布状況については、縦軸に GPA ポイントを取り、横軸に修得単位数を取って、学生一人一人の成績の位置付けを把握できるように散布図を作成している。この散布図は、学科ごとに作成しており、当該学科の中での学生個々の位置付けを GPA ポイントと、修得単位数の両面から把握し、修学指導・科目運営に活用している。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2024/chapter_3/list_3/page_3.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

① 卒業の認定に関する方針の内容

本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学共同」の理念に基づき「自ら考え行動する技術者」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与する。

・専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力

・地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力

・世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力

② 実施状況

「卒業の認定に関する方針」の適切な実施に向けたカリキュラムを編成し、その全体像を「ＣＵＭＰＵＳ ＧＵＩＤＥ」として学生に配布すると共に、ホームページで広く社会に公表している。「ＣＵＭＰＵＳ ＧＵＩＤＥ」には、「卒業の認定に関する方針」を学科ごとに具体化した「学科の学習教育目標」と、この目標を達成するための科目配置・科目間の関係性を表した「カリキュラムフロー」を示しており、更に、関係性の高い科目を科目群として括り、その科目群で身に付ける能力を示している。

このように、科目ごとの教育目標・達成度は、「建学の理念」→「卒業の認定に関する方針」→「学科の学習教育目標」→「科目群の学習教育目標」と順に整合性を保ちつつ具体化・細分化されたものである。
したがって、科目ごとの成績評価を積み上げ卒業要件を満たしていれば、「卒業の認定に関する方針」を満足する能力を備えていることになる。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	金沢工業大学
設置者名	学校法人金沢工業大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
財産目録	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
事業報告書	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html
監事による監査報告（書）	https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/gakuenjokyo.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/zikotenken-result.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/r4hyoukahoukokusyo.pdf

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　全学部共通
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ir_cat01.pdf）
（概要） 本学の建学綱領は、「高邁な人間形成」「深遠な技術革新」「雄大な産学協同」を三大旗標として掲げ、日本人としての誇りと確固たる精神を矜持し、国際社会に寄与し得る人材、次代の技術革新を担い得る人材、人類の豊かな発展を継承し得る人材の育成と、産学一体の学術研究を目指している。 また、「チームで解が多様に存在する問題に取り組み、解決すべき課題を明確にして、制約条件のもと解決策を創出し実践する」教育プログラムをカリキュラムの主柱におき、学力と人間力を統合できる「総合力」を醸成する教育研修を実施している。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html）
（概要） 本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学共同」の理念に基づき「自ら考え行動する技術者」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身に付け、卒業要件を満たした者に学位を授与する。 ①専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力 ②地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力 ③世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html）
（概要） 学位授与方針に掲げる能力を身につけるための教育課程（修学基礎教育課程、数理基礎教育課程、基礎実技教育課程、専門教育課程）を以下のとおり編成する。 ・歴史観、世界観、倫理観並びに使命感を包含した人間力を身につけるとともに、生涯にわたり学修する姿勢を育成するための修学基礎教育課程。 ・グローバルに活躍するためのコミュケーション能力を修得するための英語教育課程。 ・専門分野において求められる数理基礎能力を修得するための数理基礎教育課程。 ・社会で求められるイノベーションを効果的に実践する手法を学ぶための基礎実技教育課程。 ・専門分野における基礎理論、及び高度な専門知識と技術を修得するための専門教育課程。これらの教育課程の下で以下の教育を実施する。 ・チーム学習やアクティブラーニングにより自ら学ぶ主体的に活動する能力を育成するための初年次教育。 ・修得した知識を知恵へ転換し、問題発見・問題解決能力を育成するためのプロジェクトデザイン教育。 ・技術者を取り巻く社会環境を理解し、技術者に求められる素養・能力を育成するためのキャリア教育。 ・Conceive（考える）、Design（設計する）、Implement（実行する）、Operate（運用するを重視して国際的に通用する創造する力を身につけるための総合教育。 これらの教育実践を通して得られる学修成果は、多面的な評価方法（試験、クイズ・小テスト、レポート、成果発表、作品、ポートフォリオ等）に基づき総合的に評価。 学科及び課程の教育課程の編成及び実施に関する方針は、大学の教育課程の編成及び実施に関する方針に従い別途定める。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/gakubu_daigakuin/policy/gakubu.html）

（概要）
金沢工業大学は、建学の綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の理念に基づき「自ら考え行動する技術者」の育成を教育の目標としています。
本学は、自らが持つ資質や多様な能力を向上させようとする意欲と共に、もの・コトづくりに対する興味や科学技術への探求心と、さらには金沢工業大学の行動規範である KIT-IDEALS に共感し、自らの自己実現を目指す者の入学を求めています。
【求める学生像】
○本学で学ぶ目的や意義が明確な者
1）進学目的が明確で、新しい価値の創造に知的好奇心を持つ者
2）理工学の知識を役立て、幅広く社会で活躍する技術者を目指す者
3）科学技術とその応用分野に関心を持ち、もの・コトづくりに積極的にチャレンジする者
○本学の教育システムを積極的に活用できる者
4）本学の教育システムの特徴や仕組みを理解し、効果的に活用することで自らの能力を高める意欲のある者
5）他者と積極的に関わり、チームで協力して学修することに興味のある者
○科学技術を学び応用するために求められる基礎学力を身につけている者
6）理数系科目の学習を好み、本学の修学のために必要な基礎学力を身につけている者
7）社会に関心を持ち、多様な情報から自らの意見をまとめて表現するために必要な英語や国語、地理歴史、公民、情報等の基礎学力を身につけている者
【入学までに身につけておくべき能力】
高等学校卒業までに、理工学を学ぶうえで基本となる基礎学力（数学、理科、英語、国語、地理歴史、公民、情報等）を幅広くしっかりと学習していることが必要です。
入学試験では次のような能力を中心に評価します。
目的志向型入学（ＡＯ入学）
高等学校における学習を重視し、本学で学ぶ目的、意義や学習意欲を評価します。ならびに学力の３要素を踏まえ、表現力、コミュニケーション力など主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。エントリーシート及び面談を通して、学習状況・学習の達成度を確認します。
専門高校特別選抜
高等学校における専門教育の学習を活かして、主に科学技術とその応用分野に関心を持ち、もの・コトづくりへの積極的なチャレンジや意欲を面接、志望理由書等により評価します。ならびに学力の３要素を踏まえ、表現力、コミュニケーション力など主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。
推薦試験
高等学校における学業成績を重視するとともに、数学及び英語の基礎的能力について評価します。面接、志望理由書等により本学で学ぶ目的や意義、自らの能力の向上を目指す意欲を総合的に評価します。ならびに学力の３要素を踏まえ、表現力、コミュニケーション力など主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢について評価します。
一般試験
高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について評価します。ならびに学力の３要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲などを総合的に評価します。
大学入学共通テスト利用
高等学校で学習する知識・技能を重視し、高等学校までの学習の達成度を測るとともに、本学の教育を受けるための能力と適性、科学技術を学び応用するために求められる基礎学力について大学入学共通テストにおける本学が利用する教科・科目を評価します。ならびに学力の３要素を踏まえ、調査書等に基づき、学習意欲などを総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ir.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	4人	－					4人
工学部	－	70人	18人	5人	1人	0人	94人
情報フロンティア学部	－	16人	8人	4人	0人	0人	28人
建築学部	－	16人	0人	5人	0人	0人	21人
バイオ・化学部	－	17人	3人	1人	0人	0人	21人
教養部	－	46人	26人	24人	2人	0人	98人
大学院	－	21人	1人	1人	0人	0人	23人
附置研究所	－	9人	0人	0人	0人	0人	9人
その他	－	17人	0人	0人	0人	0人	17人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	120人	120人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/index.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

本学では、次に示す4種類のFDを実施し、本学の取り組んでいる様々な教育の成果や問題点を共有し改善を図っている。

①　学科・基礎課程を単位としたFD

授業担当者間での授業計画・運用の調整をはじめ、学科・課程内の教育において、教育要領、指導方法等のFDをしている。参加状況は課程・学科に所属する全教員が出席している。

また、春期研修会として、学長が設定したテーマに対して、事前に学科・課程単位で意見交換を行った上で、その内容を学長が参加する研修会にて発表し、それを基にディスカッションを行い、実行プランを策定する研修会を毎年開催している。

② 新任教員を対象としたFD

新任教員全員が、本学の「教育理念・教育方針・教育システム」 を理解する1日研修と、「学生への対応方法・教育手法・魅力のある授業を行うためのプレゼンテーション技法」を目的とした 4日間32時間の研修、及び「コミュニケーション能力向上」を目的とした1泊2日の合宿研修を実施している。

③ 全教員を対象とした教育フォーラムによるFD

全教員を対象としたFD研修である「教育フォーラム」を、少なくとも学期に1回実施している。ここでは、本学での良い教育手法等の具体的な事例に学ぶことを目的としたもので、教育効果の高い事例発表や教員チームの組織的な取り組み、教職協働の取り組み事例、また他大学の先進的な取り組み等をテーマとしている。

④ 全教員を対象とした「教育点検評価部」によるFD

全ての授業科目で実施している授業アンケートに基づき、全学的な視点で授業や各教育体系を評価し、良い事例を広め、問題がある事例については改善する取り組みを行っている。

また，全学的な教育改善を討議し、自己改善を組織的に推進している。なお，授業アンケート結果は学内イントラネットに開示しており、学生からの授業改善などの自由記述コメントについては、教員よりフィードバックコメントを回答している。

https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/zigyouhoukoku.pdf

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
工学部	880	778	88.4	3520	3373	95.8	若干名	5人
情報フロンティア学部	240	267	111.3	960	1117	116.4	若干名	2人
建築学部	200	243	121.5	800	941	117.6	若干名	0人
バイオ・化学部	160	130	81.3	640	538	84.1	若干名	0人
合計	1480	1418	95.8	5920	5969	100.8	若干名	7人

（備考）

b.卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
工学部	858人 (100%)	180人 (21.0%)	667人 (77.7%)	11人 (1.3%)
情報フロンティア学部	271人 (100%)	23人 (8.5%)	239人 (88.2%)	9人 (3.3%)
建築学部	224人 (100%)	17人 (7.6%)	203人 (90.6%)	4人 (1.8%)
バイオ・化学部	123人 (100%)	20人 (16.3%)	99人 (80.5%)	4人 (3.2%)
合計	1476人 (100%)	240人 (16.3%)	1208人 (81.8%)	28人 (1.9%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

ＮＴＴドコモ、大林組、川崎重工業、きんでん、小松製作所、サイバーエージェント、清水建設、ＳＵＢＡＲＵ、積水ハウス、東海旅客鉄道(JR 東海)、西日本旅客鉄道(JR 西日本)、東日本旅客鉄道(JR 東日本)、セコム、大和ハウス工業、デンソー、東芝、TOPPAN、トヨタ自動車、日産自動車、日本電気、富士通、北陸電力、本田技研工業、三菱重工業、三菱電機、

（備考）

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	998人 (100%)	775人 (77.7%)	92人 (9.2%)	131人 (13.1%)	0人 (0%)
情報フロンティア学部	303人 (100%)	234人 (77.2%)	36人 (11.9%)	33人 (10.9%)	0人 (0%)
建築学部	240人 (100%)	207人 (86.3%)	17人 (7.0%)	16人 (6.7%)	0人 (0%)
バイオ・化学部	145人 (100%)	110人 (75.9%)	19人 (13.1%)	16人 (11.0%)	0人 (0%)

合計	1,686 人 （ 100%）	1,326 人 （ 78.7%）	164 人 （ 9.7%）	196 人 （ 11.6%）	0 人 （ 0%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
年間の授業計画については、学科ごとの教育目標、入学から卒業までの授業科目を、各学年・各学期への配置状況と、科目間の関連を表すカリキュラムフローを示している。加えて、関係性の高い科目を科目群として括り「科目群の学習教育目標」として身に付ける能力を示している。これらは、冊子「ＣＵＭＰＵＳ ＧＵＩＤＥ」で学生に入学時に配布すると共に、ホームページにて広く社会に公開している。
また一つ一つの授業科目の運営計画については、シラバスに学習内容・目的・目標・達成度の基準・成績評価の方法等について、具体的に示し公開している。特に、各回の授業の内容については、詳細に提示している。更に、予習・復習をはじめとした授業外の学習を充実させるために「ｅシラバス」を運用している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
工学部	共　通	124 単位	㊒・無	24 単位
情報フロンティア学部		124 単位	㊒・無	24 単位
建築学部		124 単位	㊒・無	24 単位
バイオ・化学部		124 単位	㊒・無	24 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/shisetsu/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部共通（1 年次）	共通	1,515,000 円	200,000 円	0 円	
全学部共通（2～4 年次）		1,515,000 円	0 円	0 円	
全学部共通（8 学期を超えて在学）		757,500 円	0 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 　大学事務局において履修や成績、大学生活に必要な手続きと、これらに関する様々な質問や相談に対応している。また、数学・物理・化学等の数理に関する学習指導・学習支援を行う「数理工教育研究センター」、英語の学習指導・学習支援を行う「基礎英語教育センター」、プログラミング・AI・IoT をはじめとした情報技術の学習指導・学習支援を行う「情報処理サービスセンター」、問題発見解決型のプロジェクト活動を支援する「プロジェクト教育センター」、資格取得を推進する「自己開発センター」、専門基礎科目の「学習支援デスク」、論文・レポート等の添削指導を行う「ライティングセンター」を運営しており、それぞれ個人指導・グループ指導を行う機能を有し、学生の修学を最大限支援している。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/shisetsu/shien.html
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 　キャリア教育として「自分史の作成」と「産業界の構造と業界・職種」に関する授業を通して、学生一人一人が将来像を描き、それに向けた修学計画を立案している。学年進行に伴い、進路先を具体化するために、本学独自の企業データベースを活用すると共に、インターンシップに参加し、就職先の業種・職種を明確にしている。また、学生の進路支援と就職先の開拓を行う「進路開発センター」にて、キャリアカウンセラーが学生の個人相談に応じており、進路選択を強力にバックアップしている。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/shushoku/index.html
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 　学内に設置されている内科の医療機関である「扇が丘診療所」において、腹痛・頭痛等への対応の他、就職活動等に必要な健康診断書の発行やインフルエンザ等の予防接種も実施している。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2024/chapter_5/list_1/page_5.html 　体育館の一角にスポーツ考房を開設し、多彩なトレーニングマシンを完備しており、専門スタッフのアドバイスを受けながら無理なく健康増進、体力向上が可能な設備が整っている。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2024/chapter_5/list_1/page_5.html 　カウンセリングセンターにおいて、生活面の相談や悩みごと、心理的な悩みごとなどの相談に対応するため、常勤のカウンセラーとして、専門家（いずれも公認心理師及び臨床心理士の有資格者）11 名が勤務している。 https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2024/chapter_5/list_1/page_11.html

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ir.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F117310105460
学校名（○○大学 等）	金沢工業大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人金沢工業大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		496人	464人	517人
内訳	第Ⅰ区分	267人	261人	
	第Ⅱ区分	140人	136人	
	第Ⅲ区分	89人	67人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				520人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	29人	人	人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	8人	人	人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	10人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	35人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	－	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	1人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	77人	人	人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	26人	人	人
計	85人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。